



発行者:愛媛県東温市横河原366 国立病院機構愛媛病院 発行責任者:院長 西村一孝 <http://www.ehime-nh.go.jp>



新病棟完成予想パース 2012年暮れ竣工予定

も < じ Contents

現在そして未来へ 2	新兵器登場 5
病棟等建て替え決定	ハイビジョンカメラ手術システム導入
健康フォーラム2010 3	医療安全管理室だより 21 6
約250名来場	指差し呼称取り組み発表会
はじめまして徳田です 3	新連載 四季燦餐 6
新任ドクター紹介	お雑煮のへえ～
ぶれいぼーる 3	看護学校の頁 7
院内親睦ソフトボール大会	学校祭
肅々と話々と 4	ちよっと言い放し 7
第1回 地域医療連携交流会	外来診療担当医表 8
医療の輪 5	
重信クリニック	

※弊誌の基本方針として、掲載写真については原則ご本人様の了解を頂いております。

いまあした 現在そして未来へ トップ2 語る



西村院長

平成23年の始まりにあたりこれまでの反省と今後の抱負についてお話しします。独立行政法人国立病院機構が発足して今年は7年目となり4月で第2期中期計画の3年目をむかえることとなります。154の施設でスタートしましたが、この7年間で統廃合により現在は144施設に集約されています。

国立病院機構の目指す医療は、患者さんの目線にたつ医療の推進（質の高い医療の推進、政策医療の遂行、教育や研修を通じて質の高い医療人の育成、さらに病院の改革と経営の効率化）です。私は5年前院長に就任した時、この使命を実現するために院長マニフェストを愛媛病院ニュース創刊号に掲載しました。その内容は、「患者さまが病院を変える」「地域に信頼される病院」「病・診連携の推進」「結核専門施設としての使命」「重症心身障害児（者）専門施設」「神経・筋（難病）専門施設」「臨床研究部」の7項目でした。

先ず重症心身障害児（者）の専門施設が120床新築されました。また神経難病病棟が開設され県の拠点病院の指名をうけ活躍しています。平成23年度から正式に臨床研究部が認可され活動を始めるまでに至っています。地域医療の推進のために3病院（四国がんセンター、愛媛大学附属病院）との病院機能の役割分担と連携がより明確になりつつあります。2年前の新型インフルエンザ騒動では、当院が拠点病院となり積極的にその役割を果たしてきました。東温市健康フォーラムのイベントには積極的に参加し、地域に信頼される病院作りに貢献してきました。

私のマニフェストが実現されましたことは偏に職員への援助があったことと感謝しています。

平成22年10月26日、やっと念願の新病棟建築のゴーサインが出ました。予定では平成24年暮れに220床の5階建ての病棟が完成予定です。また70周年記念誌もまもなくできあがりです。70年の歴史の重みを受け止め21世紀における新しい病院作りが始まるようとしています。病棟建設後はサービス棟、外来管理棟の建設と建設ラッシュは続き数年後には全く新しい病院へ変貌を遂げることでしょう。私の役割はこれで終わりですが病院は益々発展を遂げ、地域に愛される病院、国や愛媛県の政策医療を担う病院、弱者に優しい病院作りにその力を発揮してくれることを期待して私の新年の挨拶とします。

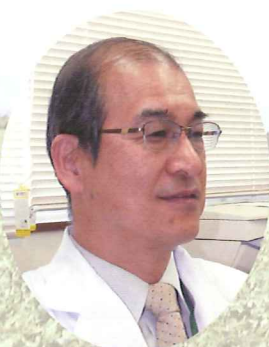
病棟等 建て替え 決定

当院の念願であった新病棟建築がやっと決まりました。5階建ての新病棟が、順調に計画が進めば、平成24年中には立派な姿を見せることとなります。建築場所は当初は外来棟の隣りを計画しましたが、将来の全体的配置を考慮して、現在の23病棟の西側でリハビリ棟の位置です。新病棟の中身は一般病棟（ユニット化した結核病床を含む）と神経難病病棟の220床と手術室、リハビリ室、薬局になります。将来計画としては、新病棟に続いてサービス棟、さらには外来棟・管理棟を新病棟と同じ地面レベルで建築して、院内廊下の傾斜をなくす予定です。

新病棟の1階は神経難病病棟が中心で、それにポストNICU的な小児の障害者を受け入れる病床も設けます。また薬局が外来棟より移動してきます。2階は循環器内科と外科が主の病棟で、ICUも併設しています。3階は整形外科と消化器・代謝糖尿病内科の病棟です。4階は呼吸器内科で、ユニット化（二重ドアで仕切りして、空調排気を別にした区画）した結核病床を20床設けます。そして5階は新しい手術室と新しいリハビリ室です。

新しい病棟では入院患者さまが快適に入院生活を送れるように、廊下幅も広く、個室を増やし、大部屋も4人床として1人当たりの面積は大きくしています。また洗面、トイレも各部屋に設けて入院環境の向上をさせています（入院患者さまの状態を考慮して、トイレのない部屋もあります）。スタッフステーションにはオープンカウンターを設けて、開放的で、患者さまやご家族がすぐスタッフに声をかけやすくしました。またスタッフステーションの近くには重症者用の病室を設け、また高齢化社会を迎え軽度の認知症の患者さまも観察しやすい工夫などもしています。

今までいくら清掃しても老朽化は隠せなかった病棟で苦労していたスタッフ、また古さを我慢して頂いていた入院患者さまにも満足頂けるものと信じています。新病棟完成に伴い今まで以上に患者さまから信頼される病院となるようにスタッフ全員が一丸となって働きます。



岩田副院長

健康フォーラム 2010

11月14日(日)開催 約250名来場

11月14日(日)に東温市健康フォーラム2010が東温市中央公民館にて開催されました。「糖尿病の予防について」のシンポジウムは当院の岩田副院長の司会で愛媛大学医学部附属病院糖尿病内科・西田互先生と歯科口腔外科・石川詔子先生に講演頂き、その後市民の方からの質問に答えていただきました。

お昼は「おせたい料理」として地元の食材を使ったもち麦ごはんとう東温汁が振る舞われました。用意された250食分があつという間になくなり、みなさん美味しそうに舌鼓を打っていました。

また地元のテレビでお馴染みの「まっすん」こと柗形浩人さん率いる劇団による食育劇が上演されました。軽妙なコントとアドリブで会場は笑いの渦に包まれました。

その他、例年のように歯科検診や健康相談、救急救命実技体験、パネル展示などが行われました。当院からは看護部からのアロマセラピー体験や身体測定、栄養士によるオリジナルおからクッキーの試食などもあり市民の方に大変喜んでいただきました。

5年目になる今年の健康フォーラムも盛況のうちに終了できました。開催に向けての準備や、当日の朝から終了までご尽力、ご協力いただいた東温市役所、東温市医師会、歯科医師会そして愛媛病院の皆様にご礼申し上げます。

統括診療部長 阿部 聖裕



はじめまして 徳田です



10月1日付で赴任しました小児科の徳田桐子です。

これまでは主に小児急性疾患、血液・腫瘍、造血幹細胞移植に携わってきました。今回、愛媛病院が改修された折に、ポスト NICU 児に対する医療が導入できるよう、準備員として派遣されました。現在は重心病棟で20歳から47歳の患者の主治医でもあります。

重心医療はこれまでほとんど経験がなく、加えて対象が成人であるため、今はまだ戸惑うことの連続です。また、社会人大学院生でもあるため、大学にも定期的に通っており、多くの方に支えられて勤務させていただいております。

現在、新生児・小児科医療の現場では、急性期を乗り越えてもなお在宅移行が困難な重症児の受け入れ先が少なく、そのため長期入院を余儀なくされ、それが新生児救急医療へ深刻な影響を及ぼしています。ポストNICU医療とは、在宅医療に引き継ぐにはいろいろなサポート体制が必要な子供を受け入れ、在宅医療環境を整えることを目的とする医療です。全国的にも、近年、国立病院機構重症児病棟の役割のひとつとして重要視されています。施設面では、近々着工される新棟建設計画の中で、必要な整備がなされるようになりましたが、現場スタッフの確保や福祉行政を含むコーディネートシステムなどの整備も必要になってきます。今はNICUや小児科にあまり馴染みのない病院ですが、準備期間で情報を発信して、皆様に関心を持っていただき、実現できるよう頑張りたいと思います。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

ぷれいぼーる 院内親睦ソフトボール大会

11月13日(土)第1回の院内親睦ソフトボール大会が開かれ、2試合が行われました。当日は少し肌寒かったのですが、元気いっぱいのプレーで心地良い汗を流しました。

試合は手術室スタッフを中心とするチームと、その他の部署の混成チームに分かれて13時プレーボール。イチロー張りの名プレーや迷球会並みの珍プレーが出る度に野次と冷やかしが飛び交い、グラウンドには始終笑い声が響いていました。

1試合めは9対6で混成チームの勝ち。2試合めは途中からナイターに突入し4対8で手術室チームが勝ちました。負傷者が出ることもなく17時頃無事終了。親睦を深めた休日となりました。



肅々と

第1回国立病院機構愛媛病院地域医療連携交流会が、平成22年11月6日に東温市中央公民館において18時30分より行われました。参加者は全員で97名、遠いところでは八幡浜から平山先生にお越し頂いたのをはじめとして、中予地区から多数の参加を頂きました。まず地域医療連携交流会の部が行われました。西村院長の挨拶に続いて岩田副院長の司会で愛媛病院職員紹介が行われ、各科の医師および地域医療連携



室のスタッフが壇上で紹介されました。

続いて講演の部に入り砥部病院中城敏院長、中野クリニック中野敬院長、当院から地域医療連携係長山田文恵師長と私が副院長座長のもと約1時間10分の講演がありました。中城先生からは砥部病院の実情と理想の病診連携のあり方についてお話し頂き、大量に購入してしまったレスピレーターの写真を見せて頂くなど、明るくそして丁寧に説明がありました。中野先生からは開業医としての病診連携のあり方について勤務医の立場も考えて下さった講演で、お二人と



第1回 地域医療連携交流会

も第1回にふさわしい講演でした。続いて勤務医の立場での病診連携について私が話し、山田師長より当院での地域医療連携室の実際について説明がありました。

その後意見交流会が岩田副院長の挨拶と東温市医師会長別宮先生の乾杯で約1時間。有意義な意見交換および懇親会を行いました。最後まで盛会で今後病診連携を深める上でまた第1回の記念するスタートにおいて成功した会と思われました。

今回びっくりしたことは座席の準備を副院長



自ら指示し、椅子を片手に動きまわって段取りしたこと、経営企画室長の号令のもと事務の職員が準備・進行片付けを進めてくれたことです。行事活動する上で職員の一体感が非常に強いことが成功の秘訣ではないかと感じました。それでも、準備や片付けなどを考えると次回は松山市内のホテルで特別講演等を行えたらいいのではないかと思います。

診療部長 久保 義一



藹々と

医療の輪



重信クリニック

繋がる地域医療連携

当院は昭和56年7月に泌尿器科専門の有床診療所として開院しました。以来、主に腎・尿路疾患を対象として診療を行って参りました。外来患者さんで多いのは女性では膀胱炎や過活動膀胱（尿が近い、漏れる）であり、男性では前立腺肥大症ですが前立腺がんも最近非常に増加しております。男女ともに多い疾患としては尿路結石があります。

また当院では慢性腎不全の患者さんに対して人工透析を行っております。最近、糖尿病から腎不全となる患者さんが増加しており、動脈硬化症から腎不全になることも多いため日頃から糖尿病や高血圧、高脂血症などの生活習慣病に対する予防・治療が非常に大切です。

愛媛病院に泌尿器科がないこともあって当院に患者さんを紹介していただくことが多く、逆に当院からの紹介患者さんも迅速に診ていただいております。また画像検査・診断につきましても放射線科のご尽力に大変感謝いたしております。これからも愛媛病院が医師会の中心となって地域医療連携を推進していただきますようよろしくお願いいたします。

施設名	重信クリニック
住所	東温市志津川246-6
電話	089-964-1188
ホームページ	http://www.shigenobu-c.com/
院長	別宮 徹
診療科目	泌尿器科
診療時間	月・水・金：9：00～12：30 14：00～17：30 火・木：9：00～12：30 土：9：00～12：30 14：00～16：30
休診日	日・祝祭日



ハイビジョンカメラ手術システム導入

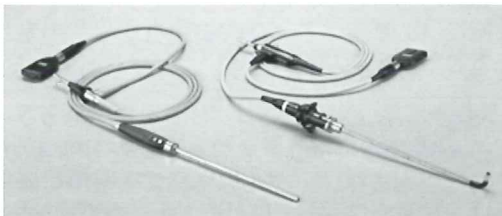


2010年10月腹腔および胸腔用ハイビジョン内視鏡手術システムが当院手術室へ導入されました。

このシステムの特徴は何とんでも目の動きをする先端にあります。これは2つあります。ひとつは直径が10mmの「腹腔・胸腔ビデオスコープ」で、ハイビジョン対応CCDを搭載した、先端が4方向へ湾曲するフレキシブルタイプのビデオスコープです。体腔内で接線方向に位置する臓器や対象となる組織の裏側まで正面視が可能で、観察深度が15～100mmと幅広いいためピント合わせも不要です。

もう1つはハイビジョン対応CCDを搭載した「HDカメラヘッド」です。こちらは従来より当院にある5mmスコープを接続できるため、5mmの体腔ポートより挿入が可能です。

これら入力されたハイビジョン映像情報はビデオシステムセンターにより24インチ液晶モニターへ表示され、手術操作中の観察に役立ちます。また、デジタル動画お



よび静止画としてさまざまな記録媒体へ出力することも可能です。

ハイビジョンの映像は手術をいっそう安全で効率の良いものにします。つまり従来の内視鏡映像よりも、もちろん肉眼で見るよりも、鮮明に組織の詳細が画面に映るため、剥離や焼灼の際の不要な出血や臓器損傷を回避できます。そして今まで時間がかかっていた手術の操作が格段に早くなることに繋がります。これら手術の安全性が高まることや手術時間が短縮されることは手術をうける人に有益なことです。加えて、術者のストレスが減り、外科医にとっても非常にうれしいことです。

すでにハイビジョン内視鏡手術システムの導入後、当院では胆嚢結石、総胆管結石、虫垂炎、腸閉塞などの内視鏡手術がこれまでにないペースで増えています。そしてまた外部からの援助にも有効です。つまり愛媛大学や四国がんセンターもすでに同様の器械を導入していることから、クオリティーの高い手術援助をいただきやすくなったと考えられます。最近では内視鏡手術をみずから希望する人も多く、時代のニーズに応じた当システムは当院の機能を高めるものと期待はふくらんでいます。

外科医長 鈴木 秀明

医療安全管理 だより

②こんなことしています

指差し呼称

● 取り組み発表会 ●

今年の医療安全部会では「指差し呼称を全部署で取組む」を計画の一つにしています。

5月に指差し呼称について勉強会を実施しました。その内容は、1. 指差し呼称とは 2. 指差し呼称の効果 3. 指差し呼称の基本形 4. 注意すること 5. 指差し呼称について全部署で取組む流れ (①テーマを決める②テーマのポスター作成③ポスターの掲示④実行⑤実施状況発表会⑥最終成果) でした。6月の医療安全週間には各部署にポスターが掲示されました。11月は各部署の取り組みについてポスターでの発表会をしました。

発表内容はヒヤリハット体験報告事例をもとに取組んでいる内容でした。各部署の指差し呼称の内容を簡単に紹介します。
 薬剤科は、朝礼で指差し呼称について周知、業務時各自が指を差し、声だし確認。
 放射線科は、検査時の手順を作成し患者さんにお名前を名乗ってもらい確認。
 検査科は、声をだすことの重要性をポスターで掲示し、検査時の声だし確認。
 療育指導室は、療育開始時・終了時に病棟担当者が名前、人数を声だし確認。
 理学療法室は、初診時は患者さんにお名前を名乗ってもらい処方箋と確認。
 栄養管理室は、ベルトコンベアの盛りつけ作業手順を16の腫で確認するマニュアルを作成し確認。
 地域連携は、FAX送信時の確認。
 看護部は、薬剤に関する内容がほとんどでした。5R(編集部注)を処方箋・カルテで確認、採血時、検査時の名前・検査項目の確認。
 最後に統括診療部長と院長から「各部署の取り組みはとてもよかった。データを見ると効果があり定着するべき事である。そのためには継続は力です。毎日の継続を積み重ねてほしい」と評価がありました。最後に「エラーゼロで行こう ヨッシ!!!」を全員で三回唱和して発表会を終了しました。

…手順をビデオで撮影し…

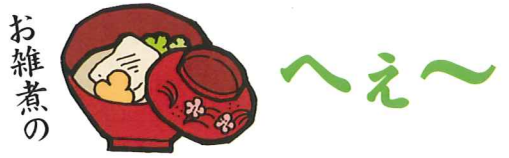


参加者からの意見として他部署の取り組みがよく分かった。現場でどうしたらいいのか悩んでいたが発表を聞いてとても勉強になった。今後の参考になる機会だったので熱心に聞いた。等の意見をいただいた。3月の成果発表では、指差し呼称が定着しているように期待しています。

編集部注

5R→5つのright (患者氏名・薬の名前・薬の投与方法・薬の量・投薬時間)

新連載 しきさんさん 四季燦餐



今回より連載を担当します栄養管理室の東温子・ひがしあつこ(ペンネーム)です。食について毎回テーマ毎に蘆薈(うんちく)を語りたいと思います。

お正月料理の代名詞という「雑煮」ですが、雑煮といってもひと口では語れません。

雑煮の由来は元来武家社会における料理で、餅や野菜、乾燥野菜等を一緒に煮込んだ野戦料理だったのではないかという説があり、元は煮雑(ほうそう)と呼ばれており、武家社会から一般庶民に普及したとみられています。

雑煮(餅)は、飲み込みの悪い方(お年寄りなど)には危険性を伴いますので、安心して食べられる雑煮の作り方を紹介します。



新春のお慶びを申し上げます
スペカラーゼを使った餅と具入りの雑煮

【材料】

- 粥餅 全粥100g (粥餅50g×2個)
- スペカラーゼ(注) 2g (総量の2%)
- 出汁 いろこ5匹 昆布5cm×5cm1枚 水200cc
- 薄口醤油10cc とろみ剤(総量の1.5%)
- 具 人参 大根 椎茸各20g
- スペカラーゼ1.2g (総量の2%)

【作り方】

- ①温かい全粥とスペカラーゼをミキサーにかける。
- ②①の全粥の温度が80℃を確認し(80℃以下なら鍋で再加熱する)ラップに包み茶巾絞り様に固める。
- ③茹で野菜もそれぞれスペカラーゼとミキサーにかけて、温度を上げてパット等に入れて固める。
- ④鍋に水を張り昆布・いろこで出汁を取り、薄口醤油で味付けし、とろみ剤でとろみをつける。
- ⑤食器に②の餅を入れ、③の野菜を切り④の温かい汁を入れて出来上がり。

注：スペカラーゼ

でんぶん特有のベタつきをなくしたゼリー食の素で、温めても溶け出さない。どんな食品にも使用可能等の特徴があり、ドラッグストアなどで入手可能です。

看護学校の頁

～学び舎から～

★ 学校祭 ★

去る10月30日土曜日、『Nursing～夢と希望と私たち～』のテーマのもと第9回学校祭を開催しました。今回の学校祭は前年のように新型インフルエンザの流行もなく、天候にも恵まれ無事に開催することができました。当日の来客数は100名を超えて想像以上のにぎわいをみせ、多くの催し物も盛況でした。

学校祭は、私たち2年生が中心になって企画、運営を行っています。その中で私は学校祭実行委員長という大役を任せられました。運営していくうえで分からないことが多く放課後も実行委員で話し合いましたが多くの困難が立ちはだかりました。しかし先輩方や先生方のアドバイスを受けることで問題は少しずつ解決していき、全学年で協力しあいながら運営していくことができました。

催し物は食品バザー、フリーマーケット、身体測定、喫茶、ミス・ミスターコンテスト、ダンス、アロママッサージ、自治会ゲーム、インフルエンザについての展示などを行いました。食品バザーや自治会ゲームでは21病棟、22病棟、23病棟の患者さんたちも楽しんでいただけるよう各係が計画を立案し、どうすればよりよく運営ができるのか、試

私がこの学校祭で心に残っていることは、準備の段階で放課後に残っているときに手伝ってくれた同学年のみんなや、実習中にも関わらずアドバイスを下さった先輩方、急な仕事を頼んでしまっても快く引き受けてくれた後輩たち『仲間』の存在です。学校祭実行委員長という形で、この学校祭の運営に関わったことで、心から仲間の温もりを実感することができました。今回、実感することができた人の心の温もりを、来年の学校祭実行委員の人たちにも感じてもらえるように、積極的に協力していきたいと思います。

最後に今回の学校祭に協力して下さいました愛媛病院のスタッフの皆様、来客者の皆様、助言を下さった先生方、運営で協力してくれた学生の皆様に、学校祭実行委員を代表してお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



実行委員長 村上 貴哉

学校祭実行委員長 2年生 村上 貴哉



焦げる～

行錯誤して全学年で協力しあい支えあいながら無事に成功させることができました。特に今年のミス・ミスターコンテストは演出や衣装が工夫されており、観客みんなをとても笑わせてくれたことが印象的でした。



これ、ええなあ

昨年を振り返ってみると、愛媛病院に勤務することになり、高速道路の往復で四季の移り変わりなど自然との関わりが目が行く年となりました。四月桜の花の満開や、六月ツバメの到来で巣から投げ出されたヒナの子育て、長い長い猛暑の夏、やつと十月中旬になり一気に冷え込み秋を迎えました。タンスから取り出した服も皺を伸ばすまでもなく厚手を着てという状況でした。病院のドングリの森の葉が落ち、朝夕の通勤でその上を通ると、ばちばちと音がするのが新鮮でした。

その中でも一番の思い出は、巣から落ちたツバメのヒナを育てたことです。休日に自宅へ帰るとごそごそと音がする箱があり、おそろのおそろのぞくと黒い色のツバメのヒナでした。娘の家の軒下にツバメが巣を作ったようで、三羽のヒナはその巣から落ちていたようです。

いったいどのように育てたらいいか。「真似ることは学ぶこと」と思い、インターネットを調べてみたり、知人に聞いたりしました。小麦粉に混ぜた市販の餌を練り、少しずつ与えました。水は余り必要ないようです。このようなことを他の人はよく知っているのに感心した次第です。しかし、前日まで元気に鳴き、餌を食べていたこのヒナたちが翌日の朝、日が昇っても全く動く様子がないのです。残念ながら自然界の摂理でしょうか。弱肉強食で一育たない子は弱い子であると思ったらツバメの親鳥は巣から子供を落とすそうです（これもインターネット）。そのうちの三羽だったのかも知れません。人間が育てるのは難しく餌をやるタイミングや夜間の冷え込みなども影響したのかも知れません。そんな訳で、短い命でしたが三羽ともいなくならしはらくは気落ちしていました。思いがけない体験をしました。ちなみに、ツバメは巣の中には糞をせずお尻を出して外にします。ツバメの巣の下を通るときは「ウンは天にあり」と、お通り下さい。

今は、インターネットなど知り得る手段が手近にありますがこの経験がなければ一生出会えないことのない体験や知識を得ることが出来ました。私たちは、日頃考えてもいないことに遭遇しますがちよっとしたことや感動につながったり、貴重な体験になったりと日々の営みを大切にしたいと思えます。

ここでもう一つ石鎚山の近くで虹を久しぶりに見ました。皆様の一年はどうでしたか？

Chun



愛媛病院ニュース編集委員の持ち回りでお届けします。

ちよっと言い放し

外来診療担当医表

内科外来直通電話 089-990-1834 FAX 089-990-1858
 外科外来直通電話 089-990-1835 FAX 089-990-1859

診療科	月	火	水	木	金	
内科	循環器	岩田 船田	橋田	橋田(予約のみ) 森岡	岩田	船田
	消化器	廣岡		古田	久保	久保
	呼吸器	阿部 佐藤	市木 渡邊	西村	阿部 植田	市木
	神経	河野(第1・3) 橋本(第2・4)	宮崎			戸井
専門外来 (完全予約制)	心臓リハ外来 橋田	心臓リハ外来 橋田	心リハ外来・橋田(午前) 心リハ・橋田(午後)	心リハ・橋田(午前)	心リハ外来 橋田	
			ペインクリニック 山内	ペースメーカー外来 第2・4(午後)	糖尿病外来 古川(隔週)	
	SAS外来 渡邊(午後)	アスベスト外来 13:00~16:00	SAS外来 植田(午後)	スキンケア外来 第1・3(午前)	じん肺外来 西村	
			神経難病 橋本	アスベスト外来 13:00~16:00	禁煙外来 佐藤 14:00~16:00	
	外科		鈴木		湯汲(第2・4)	
					消化器外科 渡部(隔週)	
				呼吸器外科 澤田(第1)		
				呼吸器外科 未久(第3)		
				呼吸器外科 山下(第5)		
				心臓血管外科 泉谷(第2・4)		
整形外科 午前のみ診療	宮本	曾我部	横手	宮本	宮本(第2・4)	
	横手		曾我部		曾我部(第1・3・5)	

※外来受付は午前8時30分から午前11時までです。ただし、土・日・祝祭日・年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。 2011年1月1日現在
 ※容体急変の心臓疾患・急性呼吸不全の患者様は24時間受け入れいたします。
 ※SAS(睡眠時無呼吸症候群)

独立行政法人国立病院機構 愛媛病院

〒791-0281 愛媛県東温市横河原366 TEL 089-964-2411 FAX 089-964-0251
 ホームページアドレス <http://www.ehime-nh.go.jp>

当院の位置と交通



高速道路川内ICまでの所要時間

- 三島川之江IC(70km) 50分
 - 高松西IC(130.9km) 1時間30分
 - 徳島IC(170.9km) 1時間50分
 - 高知IC(130.1km) 1時間30分
- (川内ICから当院まで車で5分)

交通機関

- 電車 伊予鉄高浜横河原線横河原駅下車徒歩7分
または、愛大医学部南口駅下車徒歩3分
- バス 伊予鉄松山市駅川内方面行横河原下車徒歩10分
- 自家用車 松山市から30分 伊予市から40分 西条市から60分
無料駐車場完備